

公表：令和6年2月28日

事業所名：大崎広域ほなみ園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16	2		・クラスによっては、収納スペースが不足しているが、現状のスペースを工夫して療育活動を行う。
	② 職員の配置数は適正である	14	4		・職員体制は充実しているが、職員の研修や休暇、子供の状況等により目と手が不足しているクラスがあるが、安全に療育ができるよう職員の配置数を変更し対応に努める。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17	1	・視覚からでも理解できるように写真やイラスト等で表示している。	・バリアフリー化については、園児の状況に配慮し施設設備など工夫して対応する。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16	2	・毎日職員が玩具の消毒や施設の消毒など実施している。また、送迎バスの清掃や消毒も徹底し、衛生管理をしている。	・収納スペースが狭く、物があふれてしまっている。オマル等の排泄スペースも全て同じ空間になっているが、配置を工夫し衛生管理の徹底に努める。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAリサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	18	0		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	18	0	・保護者の声にその都度対応している。	
	⑦ 事業者向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、公表結果を業務改善につなげている	10	8		・第三者の評価については、検討していく。
適切な支援の提供	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	18	0	・施設に合った内容が組まれている。	・職員の資質向上を目的とした研修の機会はあるが、他事業所の見学等も今後実施に向けて検討していく。 ・園児が登園しない日に実施する等、日程調整について検討していく。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	18	0	・家庭での様子を詳しく聴き取りし、本児の様子に合った目標設定に努めている。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	18	0		・モニタリングではアセスメントシートを用いて保護者からの聴き取りを行っているが、重複する項目があるため、内容を精査し精度を高める。
⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	18	0			

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	18	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	17	1		
	⑮	活動のプログラムが固定化しないよう工夫している	17	1		・日々の活動のねらいが固定化することのないように工夫する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	18	0	・集団での約束事やルールの理解、個別の教材等での指先を使った活動や言語の理解等、個々に合った計画を立案している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	17	1	・全職員が、その日の各クラスの支援内容が分かるように職員室のホワイトボードに記載している。	・活動内容やねらいを事前に打ち合わせし、クラスごとに情報共有の徹底に努める。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	18	0	・個人のケースを記入する様式を使って、振り返りを行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	18	0	・クラス日誌、ケース記録で様子を記入している。	
関係機関や保護者との連携	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	18	0		
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子ども状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18	0	・必要に応じて看護師も参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	18	0	・園児の様子や家庭状況での変化や心配事については、定期的に保健師と連携している。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	18	0	・他機関との連携を図り、園児がスムーズに登園できるようにしている。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子ども主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	17	1	・健康診断や歯科検診を行い、子供たちの様子や情報を協力医療機関と共有・連携している。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	18	0		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18	0		
関係機関や保護者との連携	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	6		・他の児童発達支援センターの職員同士の情報交換会や合同研修会などの検討をし、資質向上に努める。 ・事業所同士の横のつながりを大事にし、情報交換等を行っていく。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	18	0	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、令和5年度より交流会を再開した。	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	18	0		

機関 や保 護者 との 連 携	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達状況や課題について共通理解 を持っている	18	0	・バス送迎時や連絡ノートで保護者との情報共有 ができています。 ・連絡ノートだけでなく、必要に応じて電話等で 連絡を取り合っている。	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ トレーニング等）の支援を行っている	16	2		・定期的に保護者研修会を行っている。 ・保護者向けの研修会を年2回定期的に実施して いる。 ・職員向けペアレントトレーニング研修会を受講 し、家族支援につなげていく。
保 護者 へ の 説 明 責 任 等	㉒	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	18	0	・丁寧な説明を心がけ、文書等で周知に努めてい る。	
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援 の提供すべき支援」のねらい及び支援内容 と、これに基づき作成された「児童発達支援 計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から児童発達支援計画の同意を得てい る	18	0	・保護者の方針に寄り添った個別支援計画が立て られているため援助の仕方が統一されている。	
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	18	0	・必要な家庭には通院の付き添いや家庭訪問な ど、担任や相談支援専門員が細やかに配慮してい る。 ・保護者がいつでも容易に相談ができる環境 づくりに努めている。	
保 護者 へ の 説 明 責 任 等	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	18	0		・保護者同士の関係性が希薄になっているため、 連携を深める支援を検討する。
	㉖	子どもや保護者からの相談や申入れについ て、対応の体制を整備するとともに、子ども や保護者に周知し、相談や申入れがあった場 合に迅速かつ適切に対応している	18	0		・入園時の契約や重要事項説明の中で丁寧に説明 をし、保護者が気軽に相談できる関係性の構築・ 維持に努める。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対 して発信している	18	0	・園の様子は広報誌や園だよりで紹介してい る。	・行事予定の発信だけではなく、実施結果につい ても保護者に伝えていく。
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	18	0		
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思疎通や 情報伝達のための配慮をしている	18	0	・絵カードを用いたり、細かく、分かりやすいお たよりの配布でフォローできている。 ・保護者に渡す文書は、やわらかい表現を使う 等、わかりやすいものにするように心がけてい る。 ・それぞれの保護者に対して、伝え方を工夫して いる。 ・職員一人一人が丁寧にに関わりながら意思疎通が できるような対応をしている。	
非 常 時 等 の 対 応	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	10	8		・新型コロナウイルス感染症が5類に移行した が、インフルエンザ等の感染症が流行しているた め、地域住民を招待する行事等の再開時期を検討 していく。
	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護 者に周知するとともに、発生を想定した訓練 を実施している	18	0	・定期的に訓練を行っているため、職員には周知 されている。	
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	18	0		・様々な災害に対応できるように訓練の幅を広げ ていく。また、資材等の確認も徹底していく。
非 常 時 等 の 対 応	㉝	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等 の子どもの状況を確認している	18	0	・相談支援専門員や児童発達支援管理責任者が支 援計画作成時に聞き取りする中で状況確認をして いる。	

	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17	1		・現在、食物アレルギーの園児はいないが以前は、医師の指示書に基づき、適切に対処していた。
非常時等の対応	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	18	0		・ヒヤリハット事例集は整備されているが、事例に該当するか否かの判断にばらつきがあるので、共通認識を深めていく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18	0		・グループワークで様々な意見や考えを知る機会を設け、職員の資質向上につなげていく。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	18	0	・保護者に事前に十分説明をし、了解を得たうえで実施している。また、併せて個別支援計画に記載している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。